

## 第30回福岡県地域エネルギー政策研究会 意見交換にあたっての基礎資料（ディスカッションペーパー）

### （検討テーマ）

2030年度におけるエネルギー需給の見通しを踏まえた今後の地方の取組

### （サブテーマ）

水素エネルギーによる「グリーン成長」の実現に向けて

- 国は、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言し、その実現に向けて、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの最大限導入等を進めることとしている。
- 水素は、再生可能エネルギーを貯蔵・輸送・利用できるポテンシャルがあり、宣言の翌年に策定されたグリーン成長戦略においては、幅広い分野で活躍が期待されるカーボンニュートラルのキーテクノロジーとされている。
- 2023年には、国の脱炭素戦略が盛り込まれたGX推進法が成立し、今後10年間で、水素分野等に対し、官民で150兆円を超える脱炭素投資を進める方針が示された。
- また、同年、水素基本戦略が改定され、発電、産業、運輸分野における水素・アンモニアの導入量についても、2050年に2,000万トンと示されるなど、幅広い産業分野での活用が見込まれている。
- 今後、こうした各部門における更なる水素利活用の拡大に向け、地方における各主体（県、事業者、市町村、大学・研究機関等）が取り組むべき課題について検討を行う。